



滋賀県 レイカディア大学

米原校 サポートの会通信



2020年（令和2年）2月1日発行 第17号

サポートの会発足 奥代表「みんなが楽しめる会にしよう」

晩秋の気持ちの良い晴天の下、十人十色（39期北近江文化卒）が活動する豊郷での紙芝居の会場にお伺いした。中々盛況で地元の大人子供が多数来ていた。

柔和な奥代表が切り出した。「サポートの会は在学学生を支援することが第一義である。支援とは講義のお手伝いを指す。そんな活動の中で、サポートの会員（以下会員）はそれぞれの活動を通して、その行いを楽しんで欲しい」と。

会員は2年間の授業を終えて、地域活動を主導する役割を期待されるが、そこは大上段に構えると人生辛い。サポートの会に入って、在学学生に寄り添って活動を楽しむ。活動を体験しながらこれからの地域活動の経験を積むことができる。そして学生は会員の活動をみて、社会への貢献や能力の発揮を学ぶことができる。

レイカディア大学の入学者は元気な人が多い。年を重ねて、仕事が一段落して入学する人が多いため70歳を超える人が増えている。シニア世代には休息も必要で、地域活動の主導者という堅苦しいことは抜きにして、シニアライフを楽しむのだと、奥代表の思いが見て取れた。



会員にとっては講義の支援以外に成果（剪定の仕上げや施設訪問時での紙芝居や健康チェックを指す）の披露の場でもある。そこで自分が何をしたか、その成果を体感できる場でもある。そんな付き合いを通して、更なる仲間をつくりたい。遊びに通じる集まりで結構。楽しく自分の人生を送りたい。（聞き手、トマト）

41期在校生の近況紹介

健康づくり学科 ～笑って楽しく健康づくり～

私たち第41期健康づくり学科は、現在男性4名女性5名の計9名です。昨年10月に入学し、あっという間に1年が過ぎました。最初は顔も名前も知らない者同士でしたが、今では何でも話し合える仲間にな



皆で息を合わせて隣へホイ!!

りました。クラス活動で冬は忘年会、春は花見、夏はバーベキュー、秋はハイキングと色々な企画で1年が過



頭で考えてもうまくいかないかな!?

ぎて、今では多くの仲間ができ、レイカディア大学に入学して本当に良かったと心から思っています。

2年生になった今は、課題学習に取り掛かったところで、2チームに分かれて今後の計画、取り組み内容の検討をしています。1年生で学んだ基礎知識（正しいウォーキング、筋トレ、脳トレ、軽スポーツ、コミュニケーションスキル等）を生かして、仲間と共に知識と体力を身に付け、卒業後も継続して活躍出来るよう取り組みます。楽しんでいきますよ!

園芸学科

～毎回貴重な体験授業～

私たちのクラスは女性7名、男性15名の年齢、経歴、地域の違う個性豊かでアットホームな雰囲気になった最高のメンバーです。入学当初は名前と顔が一致せず、苦労しました。しかし、情報委員が入学時の写真をもとに名前および地域別色分けしたものを作成して頂いたお陰で、より親密感が生まれました。

当初は教室での授業が中心でしたが、後期授業からやっと校外実習が始まり、うきうきと現場へ向かうも雨降りの時もあり雨具を着用しての作業も大変です。

最初は低木平戸ツツジから始め、公園、由緒ある名



青岸寺での実習

勝庭園、桜並木での中高木にも挑戦しています。特に名勝庭園での剪定、654本の桜並木の害虫除去など樹木管理実習は、大変貴重な体験となりました。

また、2年生になり、課題学習への取り組みが始まり、3班に分かれ自分たちで場所の選定、施設との交渉、学習計画の立案、計画書の作成と順次実施してきました。今まで学んだ講義を基にみんなで話し合いながら、役割分担を決め、楽しみながら進め、時には宴会も取り入れ、卒業後も継続して活動できるように挑戦していきます。



ロープワークの実習

北近江文化学科

～楽しむをモットーに～

私たち北近江文化学科41期生(通称:KOB41)は、「楽しむをモットー」に北近江の文化と歴史を学んでいる12名の愉快的仲間です。

地元に住みながらも入学当初は地元のことでも知らないことが多く、現地研修をととても楽しく充実した時間を過ごすことができました。

ところが一通りの現地研修が終わると、学んだこと



栃の木峠での水源の森

をレポートにまとめて発表をしなければなりませんでした。「えっ、こんな聞いてないよ」と心の中でつぶやきながら、使い慣れないパソコンに悪戦苦闘して何とか発表を終えると、妙な安堵感に包まれたことを昨日のここのように思い出します。

そんなこんなで入学して早くも1年が過ぎました。まだまだ慣れることができない発表に戸惑いを覚えながらも、持ち前の明るさで乗り切っていこうと思っています。そのためには、一に笑顔、二に体力、そして私たちのキャッチフレーズである「楽しむをモットー」に12名のパワーを結集してまい進することが肝要と考えています。



菅浦の湖岸集落景観

卒業生の活躍～横山縦走路整備～

歩きやすい山道は足取りも軽く、その分、気分を落ち着かせてくれる。日常から離れた特別な、自然と一体となれる瞬間だ。この山道を整備しているのが、38期園芸学科卒の三上ます子さん、前田恒子さん、西川恵美子さんのグループが取り組んだ課題学習の「横山縦走コースの整備」の継続活動だ。



三人は里山活動をしている「横山はらっぱ倶楽部」の山歩きに参加して、その魅力を多くの人に体験してもらいたいと、自分たちが縦走コースの整備を計画し、実施には倶楽部や長浜山歩会、レイカディアのメンバーに助けられながら、山道を整備し、標識やコースの目印、木々の名札付けを実施してきた。その後も倶楽

部に入会して催しに参加して活動を継続している。

取材に参加したのは「第16回ふるさと歴史ウォーキング」のイベントで13人が山歩きを楽しんだ。要所所で歴史の解説をしてくれるのは、倶楽部の活動として歴史探求、里山整備、自然調査、野草の活用、子どもへの体験学習の5つの目的の中のひとつの実践である。更にうれしいことは倶楽部の会長の森川栄壽さんはレイカ23期卒の80歳を超える先輩である。山歩きでは確かな一歩を踏むため常にしんがりを務める。もう一人、当日の説明者の磯田智さんは29期卒で横山ウォークの小冊子を執筆し、かつ編集者でもある。先輩お二方が健在で活躍する姿はレイカディアの誇りだ。(取材、トマト)



はっさくかい 八朔会の活躍

39期健康づくり学科を一昨年に卒業した私達8名(八朔会)は、課題でもある地域への貢献の一環として、施設訪問を重ねてきた。



訪問の主な内容は、職員さんの手助けになるよう、利用者が使用する車いすの空気圧、ねじの緩みなどの点検と清掃である。この結果、綺麗になった車いすを見て職員の方々に大変喜んで頂いている。また、レクリエーションとして、利用者の皆さんと一緒に歌やゲーム・健康体操などを満喫した。他に、メンバー自

慢の出し物である、勇ましく凛とした袴姿の剣舞と、ハワイアンに合わせた華麗なフラダンスで、楽しい時間を過ごすことができた。こうして色々な施設を訪問すると利用者の方々の反応も異なるが、私たちは笑顔を絶やさないように心掛け、また、メンバーも楽しみながら演技が出来るよう日々練習も重ねている。

一方、メンバーの親睦は、年数回のグラウンドゴルフや飲み会、年に一度の親睦研修旅行などを企画している。これからもボランティア活動や親睦を通じて、メンバーの絆を深め健康で楽しく過ごせることを願っている。



フラダンスを躍る体の所作は難しい

園芸学科部会の活躍

肌寒い11月19日、第41期園芸学科は八幡小学校の前庭で、「秋の樹木管理実習」が北村先生の指導のもと実施された。サポートの会園芸学科部会の14名（34期5名、39期5名、40期4名）が4班に分かれて、実習の補助と支援をした。



川崎部会長は、次の5つの点を強調。「今年は10回の活動計画があり、人員を確保のため事前に割振り調整したこと。高木での作業は安全管理を最優先に心掛けていること。実習時間内に剪定を仕上げる必要があるため、サポート要員は切り枝の後始末等の補助作業をしながらも、実際に剪定をしてきれいに仕上げなければならないこと。学生には剪定

の実際を体験して、達成感と自信を得、やりがいを感じてもらおうようにしていること。サポート要員には社会参画意識と地域へ貢献していることでやりがいを感じてもらおうこと」。

今回の取材で、小学生の通行の安全と安心を第一とした剪定方針を基本にして作業に取り組んでいることは新鮮な驚きであった。また樹木の特性を知り、樹形の安定化と光を取り込むように仕上げることなど、いままで何気なく見ていた木々は、樹木にも見ている人にも心地よいものでなければならぬことを改めて知った。ボランティア活動を通じて、人がやりがいを感じ取ることが一番大切で、そのことが一番のご褒美であるとも認識した。（取材、KM）



ホームページ作成講習会

11月21日と12月4日の両日にわたり、42期生各学科のホームページ立ち上げを目指した講習会を、広報・情報室が主催した。

田井中講師（40期園芸）の指導と情報サポーターの助言などで、受講者全員が2日間で課題のホームページを理解し、講習の最終段階では、アップロードできる寸前まで到達できた。1月中には米原校学生生活のトップページは41期、42期の各学科をメインに更新しているが、この講習会を契機として、今後は、学習課程の記録や外部への情報発信とともに、各学科の特色を大いにPRして、レイ大生の仲間の獲得にも大いに役立つものと期待したい。



また、卒業生のホームページの更新も随時可能で、サポートの会員や同窓会の皆様の活躍のPRの場として活用していただきたい。（取材、KM）

42期北近江文化学科休講の衝撃

レイカディア大学事務局に米原校の今後について聞いた。43期生の学生募集ではレイカディア大学の認知度を上げ、米原校の学生数を増やしたいと考えている。事務局は12月19日開催の米原校での公開講座を企画して、広く聴講者を募集し53名が参加した。「明智光秀の生涯」がテーマであり、今年のNHK大河ドラマの影響を考慮しても、この数字は突出して効果絶大であった。その後の学校説明会には8名が参加してよい感触を得ている。

他の取組みでは市町の社協に対して大学紹介の案内を送付している。今後、市町へ更にアピールするため、大学事務局とサポートの会が共に協力して訪問し、入学する意味説明と実働誘者の増加で効果を上げたい。米原校でもウォーキングと歴史の修得をセットとした企画を実施して認知度を上げる工夫を予定している。事務局も汗している。サポートの会も臆せず募集活動に精出していきたい。（取材、トマト）

《編集後記》

サポートの会第8期が始動した。広報はできるだけ取材をする方針が変わった。初心者として自分の役割を自覚するが、慣れない取材も原稿も先輩手ほどきと、何回かの校正によって何とか形になった。

今後は、各学科やグループでの活動を広く掲載するために、事前の活動計画などを知らせていただき、取材をして生の姿や声をお届けしたい。スタッフ一同心機一転、頑張ります。ご期待ください。（KM）

サポートの会通信 令和2年2月1日第17号
発行：滋賀県レイカディア大学（☎0749-52-5110）
米原校サポートの会（広報・情報室）
□ 米原市下多良2-137（県立文化産業交流会館）